

希望

チユーリツヒ日本人学校便り

平成 28 年 9 月 5 日発行

第 17 号

発行人 校長 鈴木史良

どちらをえらびますか？

—— 将来の見通しをもつために大切なこととは ——

今学期は学習の成果を高める時であり、その心のありようについて始業式で話をしましたが、その第二弾として、どのような心をもてば学力を高めることができるか、ヒントになりそうな話をしました。9月の全校朝礼で子どもたちに紹介したのは、スタンフォード大学で行われた次のような実験・結果です。

4歳の子どもを集め、一人一人に皿にのったマシュマロを配ります。そして、子どもたちに、「皿にのったマシュマロを食べてもいいよ。」と声を掛けます。

しかし、子どもたちが食べようとした瞬間、「ちょっと用ができて外に行ってくるけど、戻ってくるまでの15分間、そのマシュマロを食べずにがまんできたら、もう1個あげるよ。」と言うので

す。あなたがそう言われたとしたなら、どうしますか？ と本校の子どもたちにも尋ねてみました。皿の中にマシュマロがいくつ入っているかは個人の想像に任せ、どちらか選ばせると、「すぐ食べる派」と、やや多い「我慢する派」に分かれました。

大学で行われた実験では、次のような実験の結果が出ました。我慢せずにすぐ食べたグループをA、我慢して15分間食べなかったグループをBとすると、全体の割合ではAグループの子どもは3分の1、Bグループの子どもが3分の2だったそうです。

これだけでは実験の意味がよくわかりませんが、この実験にはその後の追跡調査が行われていたのです。その子どもたちがその後成長して大学適性試験（SUT）を受けたとき、顕著な差が表れました。Aグループの子どもたちよりも、Bグループの子どもたちの方が試験に合格する確率が高かったというのです。

なぜそうなったのかという原因が分析されています。Aグループの子どもたちは、「現在の価値ばかり重視する。」「目先の欲望に負けやすい。」「将来の見通しをもっていない。」等の傾向があるそうです。逆にBグループの子どもたちは、「将来の価値に目を向けている。」「自制心が育っている。」「将来を見通せるから、今何をすべきかが分かる。」という傾向がみられるそうです。

この調査結果について考えると、日常の学習においても「想像力」がいかに大切であるかがわかります。豊かな「想像力」は自ら思考し、判断し、表現(創造)していく源泉になるのではないのでしょうか。学校での学習活動や家庭での読書などを通じて、「想像力」を培っていくことの大切さがわかります。

どちらをえらびますか？

ある実験

4歳の子どもをあつめ、
「皿にのったマシュマロをたべてもいいよ。」
とすすめる。



食べようとしたその時

「ちょっと用ができて外に行ってくるけど、もどってくるまでの15分間、そのマシュマロを食べずにがまんできたら、もう1個あげるよ。」

あなたなら…どうする？



自主的な活動をみんなの手で

8月31日(水)に定例の児童生徒朝会が行われましたので、委員会からは今月の生活目標、執行部からは持久走大会の具体目標が全校児童生徒に提示されました。

●「とにかく明るい委員会」より

今月の生活目標「正しい言葉づかいを意識しよう。」

その時にあった言葉づかいをする。

「です・ます」を使う。

「くん・さん」をつける。

学校は公（おおやけ）の場であり、家庭のように私的個人的な場ではありません。友達や先生に対しても礼儀を忘れず、相手を思いやる気持ちで「正しい言葉遣いをする」ということが、今月の生活目標となりました。自分たちに足りない部分を考え、自主的に取り組もうとする子どもたちの姿勢が表れています。



●「執行部」より

持久走大会の具体目標「伝えよう がんばったところと 感謝の気持ち」
「つらくても ベストをつくそう みんなでね」

各学年とも、先週から持久走の練習が始まりました。芝生グラウンドにも持久走練習コースがつくられ、休み時間や放課後、何周も周回している子どもたちの姿を見ることができます。周回数がすでに60周を突破し、2枚目の記録カードに進んでいる子どももいます。また放課後、持久走コースで仲間と自主トレをしている中学生もいます。感謝の気持ちを忘れず、みんなでベストをつくそうとする姿勢がすばらしいですね。



行事案内のため削除しました。